

ご祈祷のご案内

家内安全・開運厄除・商売繁昌・息災健康
病気平癒・交通安全・合格祈願・心願成就
仕事円満・安産祈願・初まいり・七五三詣
など

特別祈祷 —— 不動堂にて、毎日(9~15時半)
電話、HP等で予約。

郵送祈祷 —— ご祈祷した御札を送ります。

ホームページからも〈御祈祷予約〉〈郵送祈祷申し込み〉
をして頂けます。

日切不動尊大祭

4月1日(木)

九時〜護摩受付開始

(先着七〇名様におみやげ付)

十時半〜柴灯大護摩供

一件 千円
〜十一時三十分

十一時四十五分〜法話 30分

十二時二十分〜もちくばり

十二時半 終了

※今年(令和3年)は時間帯を変更のうえ「もちまき」ではなく、「もちくばり」とさせていただきます。
「もちくばり」とさせていただきます。
ぜひ、全日程ご参加ください。



これからの主な行事

千日会 八月九日(月)
七五三詣り 十月中旬 ~ 十一月
写経・写仏 三、五、七、九、十一月の1日
午前10時より 参加費 一回千円
秋の法話会 十月二十四日(日) 無料
午前10時より約30分間

みつばつつじ参り

4月5日頃〜
20日過ぎまで(見頃予定)

自生林約五千株
整備された散策道あり

イカリ草も見頃です。

(初夏は笹ユリ、
秋はリンドウなど)



「珠山千年石の庭」改修終了

山野草が咲き出します。ご散策ください。

つつじ観音

花の「美しさ・優しさ・力強さ」を象徴する「可憐な「つつじ」をイメージし、心にこめて彫った。左手中にはみたまが、おぼろげに透る。花の「美しさ・優しさ・力強さ」を象徴する「可憐な「つつじ」をイメージし、心にこめて彫った。左手中にはみたまが、おぼろげに透る。



春〜初夏の花暦

6月	5月	4月
アジサイ	ヤマボウシ	二輪草
シヤラ	サンシヨウバラ	桜
イワタバコ	笹百合	しやくなげ
	ハマナス	みつばつつじ
	山つつじ	イカリ草
		ひとりしずか
		人静

四月より「阿弥陀如来」様の御朱印を通年で頒布致します。

ことば

- 「反省はするけど、後悔はしない。ひきずらない。」
(井山裕太 囲碁大三冠)
- 雨が降るから虹が出る。
(洋画の女性銀行員)
- 仏教の基本的な考え方は、〈すべてはひとつ〉(全一)ということです。
「(何とでも)つながれば楽しい」という心は、ここからきています。

天気予報見てるもん

にわか雨に、数人の小学生が道路に面した仁王門で雨宿りをしていた。ちょうど門を抜けようとしていた私は、子どもたちに声をかけた。

「梅雨だからいつ降るかわからないからね。あしたは傘を持っていこうな」

「ううん、大丈夫」

「どうして」

「朝、天気予報見てるもん」

大まじめな目がキラキラしている。家族でいっしょに見ているのだろう。

「今日は見なかったの」と訊くと、

「え〜と」と言いながら、顔を見合わせている。 (中略)

その秋の祭りの日、「こんにちは、これ食べてください」と、その中の一人が、お赤飯を持って立ち寄ってくれた。

子どもは、親や周囲の大人たちの視線に育まれ、よりよき社会人に成長していく。

住職著書『心の花が開くとき』<大法輪閣・東京>

※如意寺、または書店、楽天、アマゾンでもご注文いただけます。



幸せに生きる方法 ~万国共通~

中南米のコスタリカは世界一幸せな国だと言われています。(ブータンもかつて言われていました。)
幸せになるためには、何をしたらいいか。プレゼンターニック・マークスの言葉をまとめました。

「幸せになるために毎日何をすべきか。それは、すべて地球に負担をかけずに行える。

たくさんのものはいらぬ。困難が予想されるが私は怖くはない。私は山の頂上に達しそこから“約束の地”を見たのだ。あらゆる活動家も政治家も、みんな山の頂上に行つて約束の地を見るべきだ。理想をきちんとイメージ化し、それを実現するために大なる転換を図る。そのためには幸せであることが必要。だから、下の5点をやってみよう!

〈地球幸福度指数〉を上げて人々をよい方向に導く。地球にやさしい幸せな暮らしを。」

Connect

大切な人との楽しい人間関係

Be active

散歩、踊る、外へ、畑へ

Take notice
(敏感になる)

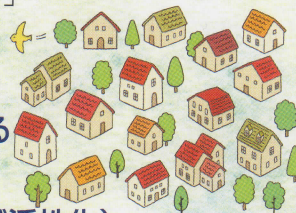
世の中の動き、季節、人の思い、自分の感情も感じ取る

Keep learning

一生学び続ける。料理、楽器、なんでも。

Give

半経済的なこと、与える喜び、思いやり (脳の報酬系が活性化)



お金も人のために使うことの方がより幸せに感じるのが人間である。

(NHKスーパー プレゼンテーションより)

如意寺の歴史⑳

大正~昭和初期

大正7年9月の豪雨は当地方に大被害をもたらした。町内の通りも深く浸水し中心部の橋さえ流された。当寺も裏山が崩れ本堂が倒壊した。本尊は無傷だった。住職(先々代)は、丹後・但馬を広く勤進に回った。寺総代頭でもあった久美浜町長・第十三代稲葉市郎右衛門氏が先ず2千円を寄付されたことが大きな励みとなり、およそ3万円の浄財が集まった。

昭和2年、江戸時代様式のまま無事再建がなつたが瓦が葺けず、昭和10年まで屋根は「土居葺き」のままだった。分厚く割った杉板を重ねた美観に、参拝の人は「檜皮葺き」と思われたらしい。職人は岩田春吉氏。この時の主な寄進者名は今も本堂参道右側の石柱に刻まれている。本堂完成は、その後全国で活躍される宮大工中村淳治棟梁27歳のデビュー作となった。その後も境内諸堂整備に余生を捧げた住職は昭和14年に遷化された。美声でご詠歌をよくし、高野山にもよく出仕された。囲碁の腕前は郡内一、能筆で質実剛健な人物だったと聞く。渦中の大正9年生まれ先代住職二十一世祐賢師は若くしてその父を失い、19歳で次期住職となった。(つづく)



倒壊前の本堂(向こうは庫裡)